図 書 紹 介・New Publication

Fossilien Atlas Fische. Karl Albert Frickinger. 1991. Mergus, Verlag für Natur- und Heimtierkunde, Melle, Germany. 1088 pp. DM 128.00.

大きさ 13 cm × 188 cm × 50.3 cm

魚類の化石は古生代のカンブリア紀後期（約5億2千万年前）から出始め，魚類の時代と言われるデボン紀には無顎魚綱，棘魚綱，板皮魚綱，軟骨魚綱，硬骨魚綱の全てが出揃った．シーラカンスやハイギョ類が出始めたのもこの時期である．その後，各時代の地層からそれぞれ特色のある淡水魚，海産魚の化石が豊富に出ており，魚類の進化の大筋を見ることができるのである．ところが化石の種類はあまりにも多く，また実物に接する機会も少ないため，魚類学者にとっては何となく雲の中の存在のようで掴み所なく感じている人々が多いと思う．

そのような状況の中で，ここに紹介する本は900枚以上のカラー写真を用い，1頁に1属で重要な化石の属が網羅されている．部厚い本書を手にし，頁をあちこちめくって見て，これはすごい本だという強い印象を受けた．しかもドイツの熱帯魚関係の会社の出版になるもので価格が大変低く設定されている．

著者のフリッキンガー氏に筆者がミュンヘンで会った際，魚の化石の写真図鑑を書いていると言っていたのがこの本であった．著者は写真，熱帯魚，化石等に広い興味を持ち，世界中の博物館や研究所をまわって，重要な化石を撮影した．

本書は世話になった60に及ぶ博物館，大学，研究所と研究者達のリストに始まり，地史や魚の進化，魚の尾鰭，鱗などの特徴の解説，分類体系の説明と続く．全ての目は Berg のシステムに習って -iformes の後尾に統一されている．これは魚の化石の本では珍しいことである．

無顎魚綱44属に始まる各頁には綱，目，科名が写真の上にあり，下には標本の学名，大きさ，時代，産地，標本の所在が記されている．

解説の本文は属名とそのシノニム，その属の出る時代の幅，世界における産地，属の特徴，生態，現在の近縁な魚類となっている．また現存の近縁の魚の写真や化石の復元図もある．簡潔に書かれているが，大変な情報量である．

無顎魚綱に続き，板皮魚綱24属，軟骨魚綱80属，棘魚綱14属，硬骨魚綱は約740属含まれている．

最後にまとめられている参考文献には魚類化石に関する重要文献はほとんど含まれており有用である．索引は属とそのシノニムの索引，目，亜目，科の索引，各時代（紀や世）から出る属のアルファベット順のリスト，主要な化石産地別の産出属のリスト，現世の属と科の索引となっていて，大変有用である．いくつかの誤りが散見されるが，美しいカラー写真が多く情報量が豊かな本書は，化石の専門家でない研究者にも大変便利な本であると思われる．　（上野輝彌　Teruya Uyeno）

会 員 通 信・News and comments

Studies on the Oceanic Ichthyoplankton in the Western North Pacific の廉価販売のお知らせ

1986年に九大出版会から出版しました "Studies on the Oceanic Ichthyoplankton in the Western North Pacific"（定価10,000円）の在庫整理のため，同1部を3,500円（含送料）の廉価で販売いたします．購入をご希望の方は私へ連絡頂き，また代金を小沢貴和名，鹿児島銀行きしゃば支店かんぎん総合口座番号446295へ支払って頂きとう存じます．ご協力をお願いいたします．

（小沢貴和　Takakazu Ozawa）

会　　記・Proceedings

日本学術会議だより No. 25（1992年5月）

3月23-26日の4日間，AASSREC (Association of Asian Social Science Research Council) 執行委員会が日本学術会議の会議室で開催された．第114回総会を4月15-17日に開催し，新たに『学術国際貢献特別委員会』を設置した．

科学講演会のお知らせ

このほど当学会に下記の講演会開催計画の案内がありましたので，お知らせします．

第42回科学講演会開催計画

テーマ：自然科学の原点，博物学について考える

～ナチュラル・ヒストリーのすすめ～